

## 夏・百日紅



つるつるした木肌に赤い花。さるもすべり落ちる？

### サルスベリ（別名・百日紅）

真夏の太陽のもと、紅やピンクの可憐な花を次々と咲かせ、木の肌がつるつるとして、和名の由来は木肌が滑らかであることに由来する。夏に表皮の一部がはげ落ちて、その部分が白くなるのである。また、別名の百日紅も長く咲き続けることから。

サルスベリは中国南部原産の落葉小高木であり、日本には江戸中期に渡来した。南方系の植物であるためか、春の芽出しは遅く、新しく伸びた枝先に円錐形の花をつける。七月の初めから九月の終わりまで真夏の陽射しを楽しむかのように咲いている。

『この花はなかなかおもしろい。おしべが二つあり、中央にある多数のおしべの花粉は黄色で短く不稔（種をつくらぬ）で蜂を誘う。一方、外側にある紫色のおしべは、稔性のある（種をつくる）花粉で長く突き出ている。』

この中間種のシマサルスベリやヤクシマサルスベリは日本に自生している。

なお、シマサルスベリはグリーンパークで見ることが出来る。



青い空によく映えるサルスベリの花

あしひきの山のかけぢのさるなめり  
すべらかにても世をわたらばや  
藤原為家（「夫木和歌抄」より）  
険しい山道のさるすべりは、滑らかでも世を渡るだろう。  
樹木のさるすべりと天皇が退くことを掛けている。すべらは皇（すめら）のことであろう。王朝和歌で、さるすべりが詠まれるのはまれである。

為家（一一九八〜一二七五）は藤原定家の次男。十代半ばから内裏歌壇で活動を始めるも、若い頃はけまりに夢中で歌道に精進せず、父定家を嘆かせていた。ところが、二十才になった頃から真剣に取り組むようになり、この歌はそれ以降の作品らしい。

### サルスベリ あれこれ

- 和名 サルスベリ  
中国名 百日紅(ひゃくじつこう)、紫(し)薇(び)、怕痒樹(はくようじゅ)  
同名異木 ナツツバキ  
ツバキの名はあるが、ツバキと異なり夏に花をつける落葉高木。木肌がすべすべしていることから「サルスベリ」と呼ぶところがある。  
別名 ハダカノキ、クスグリノキ  
花言葉 「雄弁」 太くたくましい幹の姿から。  
材の用途 幹がくねくねねじれていることから「床柱」や「工芸品」に利用される。  
薬用 特になし

